

スタッフのためのフリー ペーパーマガジン

まめ

vol.5 2017.07

先月、「全国自立生活センター協議会」（全国にある自立生活センターに様々な情報提供をする機関）のセミナーが仙台で開催されました。アクスベから代表、事務局長、スタッフ2人の計4人で参加しました。

前入りした初日、さっそく仙台式と銘打った名物牛タンを頂きました。分厚いながらも程よい弾力を感じながらも簡単に噛み切れて、絶品でした。そうして英気を養い翌日からのセミナーに備えました。

セミナーではピアカウンセリングの第一人者安積さんのお話や、少しずつ進んでいる法・制度の状況、知的や精神障害者の地域生活が進んでいない現状など様々なお話を聞きました。3日間を通して時には考え込み、時には交流して笑い、大いに刺激を受けたセミナーでした。そんなセミナーを終え、帰路に着こうとした時事件が…

お土産も牛タンだなどリュックに積み新幹線に乗り込んだのですが、発車して間もなくスピードが落ちていき、熱海で緊急停車。架線事故により運行見合せとのアナウンスが。すぐ動くだろうと踏んでいましたが、1時間経ってもそのまま動きません。

これはダメだなと、4人で話し合いを始めました。車中でこのまま待つか、付近のホテルで一泊するか。そんな時、代表から「自分が介助を使っている人と想定したらこの場面どう判断する？」と問い掛けられました。

普段介助者は指示を受けて行動という、受身になることが多いですが、この言葉に思考回路のスイッチが入りました。今いる一員として、どうこの場を乗り切るか考えて、それぞれの意見を出し、役割(介助シフト調整やホテル探し)を分けました。新横浜で一泊し、翌日には帰ることができました。

これまで介助者としてだけでなく一人のアクスベスタッフとしての働きを求められ、考えて来ましたが、今回その実践と経験ができました。団体としてもひとつ成長出来たと実感できた、最後まで盛り沢山の仙台出張でした。

文：編集O



ふりかえればイシュー

今回は「ノーマライゼーション」のお話。

■ノーマライゼーションとは

ノーマライゼーションとは障害をもっている人、持っていない人が等しく人間としての権利を享受し対等に、そして平等に生活ができる社会を実現させる考え方です。障害を持っていても地域の中で生きることが出来る社会こそあたり前の社会である、ということが根本にあります。

この考え方は重要な考え方であるとして、これまで障害者福祉の分野、それに関わる人たちに浸透し広がっていきました。例えば、公共交通機関においてはバスを乗る際にスロープを用意したり、駅にエレベーターを設置したりすることで誰もがアクセス出来るようになると考えられ、事実そのように整備されてきました。しかし、私自身、実際に介助の仕事を通して感じ思ったことは、本当の意味で平等・対等なのではなく形式的なものとして社会が変わってきているのではないかということです。

■人と社会の関係

例えば市バスに乗る時、車椅子で乗ろうとすると運転手がスロープを設置し、決まって行き先を聞かれて所定の位置で転倒防止の輪留め、ベルトの設置を求められます。車椅子の人に一律でこういった対応をとることは形式的であり、車椅子に乗っているからといってみんな同じとは限りません。自分でボタンを押す人や転倒しないよう工夫される人、介助者を連れている人もいます。それぞれの状況や個性性を考えて安全に乗れるよう対応することが大事だと思います。スロープについても、車椅子の人にだけ設置するのはベビーカーを押す人や歩行器を使うお年寄りのことが置き去りにされているようにも感じます。つまり「人」ではなく、障害を持っている「人」のみを特別視して一律に配慮すればよし、というのではなく、みんなが安全に乗れるためにどうすればいいのだろうと考えていくことが必要なのだと思います。そのために不自由に感じている人の意見や声を聞くことも大切です。

私はノーマライゼーションの理念は素晴らしいものだと思いますし、私も含めた全ての人が生活の中で実感出来るレベルまで社会に浸透することが望ましいと思います。さらには一部の人だけでなく全ての人が持つことでみんながあらゆる場面でその恩恵を受け、もっと豊かに生活出来ることに気付くと、それに合わせて社会は変化していくと思います。社会というものは特定の誰かがつくるのではなく、みんなの価値観、考え方、生き方、物事の捉え方が合わさり、交わり、反発して、そして重なっていくことで作られていきます。だからこれからもいくらかでも変わる可能性を秘めています。すべての人が持つことで、ようやくこの理念は形式的な平等、対等を越えていき、そして実質的に社会をつくる血として流れ、誰もが感じられるようになるでしょう。

文：編集Y

サイドバイサイド

ハタラク人たちのよこがお。

編集0：今回サイドバイサイドは F 君です
介助者を始めて4か月目になるけど、仕事には慣れてきた？

藤村：慣れてきました。最初のころは介助や家事がここまで出来ないのかと反省するばかりでしたが、先輩介助者の方のフォローや加古さんからの根気強く指示をしてもらってあって、今は少し出来る様になったかなと感じています。

編集0：F君は学生だよ。普段はどんなことを勉強しているの

藤村：社会福祉学科で社会福祉士を目指して勉強しています。人と関わる仕事をしたい思い、心理学なども考えましたが、社会福祉士を選びました。介助者の仕事を選んだのも福祉の勉強をしていたのが縁で、大学の授業にアクスペのみなさんがお話に来られていて、興味を持ったのがきっかけです。

編集0：実際に福祉の仕事始めてみてどうだった？

藤村：学校で福祉制度の事や問題となっていることを勉強してきましたが、なかなかイメージがわからず実感できていませんでした。この介助の仕事始めて、障害当事者の方の歴史や活動されていることを聴いて、社会が見えてくるようになったのを感じています。社会福祉士を目指す上で、この国で生活するための法律や制度はしっかり知っておかないといけないと思っているので、良い経験になっています。

編集0：そして今も福祉の仕事に就こうと就職活動中なんだよね。

藤村：そうですね。社会福祉士になって、社会福祉協議会で働けたらなと考えています。地域でどんな人も暮らせるように社会福祉士としてお年寄りや子ども、障害を持っている方、支援が必要な方々に関わっていききたいと考えています。



F・Y さん
22歳0型
登録介助者

まいのーと

私たちからのお知らせ

□月にいちどのごえんの日。それはそれは一人ひとりがよりあるがままの自分をあらわせるとっておきの時間。いつもの場所が少し姿を変え、みなさんと食事とお話を楽しむ憩いの場に。

ご縁の会

する日 7月28日金よう

じかん 18時～20時すぎ

ところ アークスペクトラム事務所

おかね 1,500 縁



□介助スタッフ大募集

NPO法人えがくでは夜勤には入れる介助スタッフを急募しています。アルバイトの方であれば兼業可。学生さんの場合、学業との両立を相談しながらシフト調整します。

○働く時間

日勤は9時から19時。夜勤は19時から翌朝9時まで。※その他の勤務形態有

開始時間終了時間の調整はその都度相談して決めています。

働きたいという方がいらっしゃいましたら下記の連絡先まで
075-874-7356 代表